

スプラッシュフェスティバル

8月11日(木) ~ 8月13日(土)

IN 兵庫県立兎和野高原野外教育センター

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	水鉄砲大会	作戦会議
2日目	野外炊飯、フェス準備	スプラッシュフェスティバル	キャンプファイヤー
3日目	清掃・思い出工作	施設を出発・解散	

一日目： 各集合場所からJR尼崎駅へ集まりました。早速、挨拶、グループ分けを行い、今回のキャンプで絶対に守ってほしいことを二つ伝えました。一つ目は、『伝えた時間を必ず守ること』、二つ目は『忘れ物がないようにグループで確認してから出発すること』です。この二つを守り、三日間良いキャンプを作っていきます。バスに乗車してからは自己紹介をし、仲が深まったところで各グループのチーム名を決めてもらいました。その後は各自が持ってきた水鉄砲を紹介し、作戦会議を始めチーム意識を高めました。施設に到着し、持参した弁当を食べた後は、手始めに“水鉄砲大会”を行いました。相手グループのボイを狙い撃ち、打たれた数が少ないチームが勝ちです。各チームフィールドの中を走り回り、バスで話し合った作戦を実践されていました。炊き出しの夕食を済ませた後、翌日の【スプラッシュフェスティバル】のルールの発表をし、チームの色を決めました。そしてユニフォームを作成しました。各グループの個性が光るユニフォームが完成しました。明日、ユニフォームを着用し、戦うことが楽しみな反面、“絶対に勝ちたい！”という思いが高まり緊張感も感じられる夜になりました。

二日目： おはようございます！ 決戦の日がやってきました。スプラッシュフェスティバル恒例の“朝カレー作り”から活動が始まります。グループの中で、かまど係・野菜係に別れてカレー作りに取り掛かりました。決戦が迫っている為、野外炊飯をする人とグループの旗のデザインをし、作戦会議を進める人に分かれられました。それぞれ得意な分野で活躍され、スムーズに野外炊飯を終えることが出来ました。朝に食べるカレーはとても新鮮で気が入ったようでした。片付けもグループごとで半分に分かれて手際よく終わらせました。その後は最後の作戦タイムです。ユニフォームや旗が完成していないグループは、作戦会議と同時進行で進めました。どのグループからも真剣な声が聞こえ、盛り上がり、気持ちが高揚していきました。ユニフォームに着替え、それぞれの陣地に旗を取り付け、色水の用意をして準備が整いました。いよいよ、スプラッシュフェスティバルのスタートです。グループで固まって守りを徹底するグループ、ボイをひたすら狙いに行くグループや、シートに一番色を付けるとポイントが高いためシートを狙いに行くのに徹するグループなど、様々で見応えがありました。全部で3ラウンド行い、回数を重ねる毎にシートの枚数を増やしフィールドを広げました。色水の減りも徐々に早くなるほど、盛り上がりを見せ、全ラウンドが終了すると「まだ足りない！」という声も上がっていました。結果は翌日発表のためドキドキしながら片付け、夜ご飯に向かいました。食事中、大雨が降っていましたが、キャンプファイヤーの時間に雨が上がり、無事にキャンプファイヤーを行うことが出来ました。リーダーが用意したレクリエーションを楽しみ、最後はスプラッシュフェスティバルの振り返りをしました。昨日初めて会ったメンバーと全力をぶつかり戦ったことでお互いの距離が縮まっているように感じました。この日はテントに戻ると、疲れからかすぐに就寝していました。

三日目： キャンプの最終日は、朝からやる事が盛り沢山です。シートや荷物をまとめ、キャンプ恒例の“バックサント”を作りました。朝食を済ませた後は、もう一度テントに戻り、清掃に取り掛かりました。その後“思い出工作”を行いました。今回は丸太に水分を多く含んだ絵の具をふり、ペンキがたれたようなデザインでキーホルダーを作っていただきました。自分たちのグループの色を使い、ペンで思い出を描き、素敵な作品が沢山出来上がりました。思い出工作が完成後、グループごとにチューベットの褒美を配りました。ずっと暑い中での活動だったのでとても美味しくいただきました。最後はいよいよ結果発表です。第三回スプラッシュフェスティバルの優勝チームは【ビーナッツグループ】でした。優勝チームには、タンブラーの景品が贈呈されました。全員で集合写真を撮り尼崎へのバスに乗り込みました。帰りのバスでは談笑したり映画を見たりなどしてキャンプを最後まで楽しませていました。



<キャンプ総括>

この度は『スプラッシュフェスティバル』にご参加いただき誠にありがとうございました。今回のキャンプを通して、メンバーには【チームとしての意識】を強く持っていただくことを重視しました。また、チームごとに水鉄砲大会やスプラッシュフェスティバルだけでなく生活ポイントも追加し、総合得点で競っていただきました。試合に勝ちたい！と頑張るのはもちろん、集合時間に間に合う・話を聞くなど生活面でもグループ内で声を掛けあっておられる関係がよりチーム力を高めたのだと思います。そのチーム力があつたからこそ、優勝出来たチームも出来なかったチームも解散時に達成感を分かち合うことが出来ました。来年は、また違うメンバーで違うチームが出来上がると思います。今回、高めることが出来たチーム力を活かし、皆様の挑戦をお待ちしております。(濱野梨々花)